

SPIRITED—TALE

れいん rein

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

*昔々、地球には一つの神社がありました。

*そこでは、とある家族の娘がいなくなるという事件が起こっていました。

*その次の日から、その神社では、人が…特に子供がいなくなり始めました。

*周りの人たちはそれを「神隠し」と呼び始めました。

*そして、長い時がたち…

*SHRINETALE, 20××年。

*そこでは、年に一度の大きなお祭りが一週間、開催されていました。

*そこに、その神社はあったのです。

*そこで、一人の骨が被害に会いました…。

*SPIRITED—TALE

INSPIRITED.

目次

003	002	001
—	—	—
12	7	1

1 SPIRITED.

001

*20×年，

*16時52分

*Anti-voidにて。

Error「すー…すー…」

Ink「Errorrrrrrorrrr
!!!!」

*ドゴツ!!!

Error「痛ってえ!?!ってInk!?!」

Ink「Error!今日は何の日でしょうか!」

Error「うp主の命日。」

れいん「うへ!?!」

Ink「いやかわいそうだよ!?!メタいメタい!うp主出てきちやダメ!それに違う!」

Error「じゃあなんだ?」

Ink「年に一度のお祭りだよ!ずっと楽しみにしてたんだ!」

Error「こいつ精神子供かよ…」

I n k 「今失礼なこと思ったでしょ？」

E r r o r 「いやなんにも。」

E r r o r (ま、俺が行くことにはならないだろうけど…)

I n k 「まったく…あ！もちろん君にも来てもらおうよ？」

E r r o r 「え？」

?速攻のフラグ回収ーーーー!!

I n k 「ささ！この浴衣来て！」

E r r o r 「なんでだよ！」

I n k 「せつかくのお祭りでしょ！これ着なきや！」

E r r o r 「お祭りには必ず浴衣を着なきやいけないのか!？」

I n k 「そうだよ！（E r r o r 「そんな規則ねえよ！」うるさいなあ！早く着てよ！」

E r r o r 「はあ…しょうがねえ、着てくる。」

I n k 「やったあ！」

*数分後。

Error「着てきたぜー」

Ink「うわあ!?Errorがまぶしすぎて直視できない!」(Error「どういう意味だ!!」めっちゃ似合ってるよ!!」

Error「そ、そうか…?」

Ink「わあてれてる!」(そうだよ!似合ってる!」

Error「…逆だぞ?」

Ink「あつやば」

Error「はあ…行くぞ。」

Ink「うん!」

—————

Dream「あ、ようやく来た!」

Killer「おっそい!もうちよつと早く来て!」

Ink「ごめんごめん」

Berry「むえ!Errorも浴衣着たのか!似合ってるぞ!」

Error「正式には「着せられた」だけだな…あとありがと。」

M u d e r 「んぶつ…Errorが浴衣…ww」

M e a r e 「www」

E r r o r 「わ、笑うな!!」

C r r o s 「…早くいきましようよ、あと十分ですよ。」

I n k 「わっ、やばい!」

D r e a m 「早く行こう!」

*光AUと闇AUは、ショートカットを使った。

.....

20×年,

17時00分

祭り会場、SHRINETALEにて。

H o r r o r 「なあなあC r r o s : :」

C r r o s 「なんですか?H o r r o r 先輩。」

H o r r o r 「祭りっておいしいものあるのか?」

C r r o s 「もちろん!たくさんありますよ!」

H o r r o r 「わあ…!早く行こう!」(キラキラスマイル)

全員―H o r r o r & B e r r y (笑顔がまぶしいっ!!)

B e r r y 「D r e a m ! あそこ! やりたいのだ!」

D r e a m 「んー? なになに―って射的か! 懐かしい」

B e r r y 「やってもいいか?」

D r e a m 「うん! 僕と一緒に勝負しよう!」

B e r r y 「いいのだ!」

*ダダダダつ

I n k 「あはは、元氣いいねえ」

K i l l e r & M u d e r 「僕／俺はりんご飴でも…」

K i l l e r 「は?」

M u d e r 「あ?」

店員さん 「りんご飴! 最後の一個!」

K i l l e r & M u d e r 「僕が! / 俺が!」

K i l l e r 「あ”あ”っ!」

M u d e r 「はあっ!」

*バチバチバチ:

C r o s s 「まったく…」

H o r r o r 「C r o s s！あそこに行きたい！」

C r o s s 「ええ!?まだ行くんですかあ!?!」

*たたたたた・・・

M e a r e 「じゃ、俺は非リアたちのネガティブを摂取しに行くか
…」

I n k 「じゃ、僕も行きたいところがあるから行くね！」

*すたすた…

E r r o r 「・・・俺だけ残ったな。」

*20××年，

*19時45分

*祭り会場、SHRINETALEにて。

Error「…どこに行こうか。」

*Errorはしばらく歩いた。

Error「ふう…休憩するか。」

*ドゥゥゥン
!!!!!!

Error「うへ!?つてなんだ、花火か…びつくりした…」

Error「…綺麗だなあ、音うるさいけど。」

*いちやついてるリア充がいる。

Error「…爆ぜとけ。」↑↑

*花火終了

Error「はあ、綺麗だった…DreamとかBerryとかが
喜びそうだな。」

Ink「あ、Error〜!」

Error「へ？Ink？いたのか。」

Ink「花火見たかったからねえへへ。まだ時間はあるけど…どうする？」

Error「そこら辺を回ろうと思う。」

Ink「OK！じゃ…八時半くらいに出口で！」

Error「OK。」

.....

Error「…ん？」

*そこには、一軒の神社があった。

Error「たしか…神隠しにあう奴らが連発してるって噂の？うわあ…マジカヨ！」

*しゃん、しゃん。

Error「…なんだ？にしてもあたりがすごく静か…」

さつきまでにぎわっていたはずなのに…

〈もういいかあい？〉

Error「誰だッ!？」

「まあだだよ。」

Error 「だれだよ…誰かいるのか??」

「君も遊ぼう。」

Error 「は!?!…あ…」

〈ごっちへいらっしやい。く〉

*Errorは無意識に歩き出した。

Error (行くな、行くな、行つちやだめだ…)

*しかし、足は止まらない。

Error 「…いま…行く…。」

*シユウウウ…

…

*今更だが、Errorの設定のようだ。

Error!Sans

*Lv. 8

*HP. 64

*EXP. 9

*GOLD. 500

*ソウル・灰色

*意味・破壊

*服装

・紺色の浴衣姿。青色のスカーフも巻いている。

・首には小さいころにもらったInkお手製の金色の四角形の口ケツトをつけている。

*性格・しつかり者。

*一人称は俺。

*年齢は18歳か20歳

*過去はトラウマとなっている。

*Genoの頃の記憶を覚えていない。

memo

- ・ 接触恐怖症：は半分ほど克服している。
 - ・ 闇AUは仲間。
 - ・ 光AUは友達。
 - ・ その他AUはError自身にとって、都合なおもちゃ。
 - ・ 人形を作ったり、服を作ったりするので、裁縫は普通に好き。
 - ・ 破壊には興味がなくなってきた。
 - ・ 好きなAUはUndernovaとlittle tale。
 - ・ MurderとKillerのけんかを止める係としてCross
- とは気が合う。
- ・ 他は原作どおり。

20××年

*9時03分

*光AUアジトにて。

I n k 「え？Errorが行方不明？」

K i l l e r 「うん！お祭りのあとから三日も帰ってこなくて…」

M e a r e 「殺しとEXPにしか興味のないあのK i l l e rが。」

M u d e r 「快樂殺人鬼のK i l l e rが。」

D r e a m 「他人のことを心配するなんて。」

I n k 「珍しいねー」

K i l l e r 「おいお前ら後でこい」

I n k 「まあ、そんなことは置いといて…僕一個、気になることがあるんだ。」

D r e a m 「なに？」

I n k 「あのお祭り会場の近くには神社があるじゃん？」

D r e a m 「うん。神隠しにあうって噂の…あ。」

I n k 「そう。D r e a mが察した通り、僕はErrorが神隠し

にあったのではと思ってる。」

C r r o s 「でも、神隠しなんて本当にあるんですか？ただ単にE r r o r先輩が迷子になってるだけかもしれないのに…」

M e a r e 「いや、普段からしつかりしてるあいつが迷子になることとはない。」

C r r o s 「じゃあ、本当に…?」

I n k 「これはあくまで僕の『予想』だけどね。」

H o r r o r 「なあ、C r r o s…」

C r r o s 「どうしたんですか？H o r r o r先輩…まさか思い当たることでも!?!」

I n k 「え!?!教えて教えて!!!」

D r e a m 「もったいぶらないで!!!」

H o r r o r 「いや、そうじゃなくて…」

C r r o s 「…え?」

H o r r o r 「朝飯まだか？C r r o s…」

*この後、その場にいた全員の光AUと闇AUの皆（ただし、E r r o rとH o r r o rを除く）がずっこけたのは言うまでもない。

.....

*20××年
*時??分
*????にて。

Error「…っ…ここ、は…?」

*そこは、真っ白な空間で、Errorが倒れているのは黒色の花畑だった。

Error「すげえ真っ白…にしても、このつくり、何か見覚えが…まあ、ここで止まっても意味ないから進むか…。」

*Errorは歩き出した。

Error「…!思い出した!ここ、ルインズだ!でも…何が…欠けてる?」

色彩?

人?

いや、それよりももっと暖かいもの。

Error「雰囲気も消えてる…まるでGenosSideのあとみたいだな…」

すると、そこで。

*しゃん、しゃん。

Error「!また!」

「ごっちだよ。」

へこつちにおいで。

Error「…う…？今、のは…??とにかく、進もう、いや、進まなきやダメだ。」

*Errorはひたすら歩いた。そして、彼はルインズを抜けた。